

■会告

■日本放射光学会第84回評議員会議事録

日 時：2009年10月17日(土) 14:00~16:00

場 所：理研東京連絡事務所 会議室

出席者：足立伸一（編集幹事）、雨宮慶幸、尾嶋正治（会長）、
河田 洋、木下豊彦、小杉信博、下村 理、
生天目博文、野村昌治、間瀬一彦、水木純一郎（渉外幹事）、
村上洋一、八木直人、山本雅貴、渡辺 巖、
渡邊信久 各評議員、原田慈久（庶務幹事）、木村 滋
（行事幹事）

欠席者：雨宮健太、石川哲也、太田俊明、柿崎明人、北村英男、
木村真一（会計幹事）、坂田 誠、繁政英治、辛 埴、
田中 均、谷口雅樹、中井 泉、中川和道、横山利彦
事務局：佐藤亜己奈（WORDS）、西野三和子（WORDS）

〈報告事項〉

0-1. 本会議の議長を村上評議員にお願いした。

0-2. 2009年10月1日より2010年度事業がスタートしたことを
受け、尾嶋会長より活動方針に関する所信表明があり、1)
放射光広報活動の充実、学会会員の増加（目標1,500人）、
講談社ブルーバックス発行（一般向け）など、2)新しい放
射光科学の推進：放射光科学のビジョン2020策定、3)若
手研究者の育成、4)アジア・オセアニアの放射光科学の
リーダーシップ、5)財政基盤の確立、という活動方針案に
ついて説明があった。

1. 2009年事業報告

原田庶務幹事より2009年度事業について、第22回総会/年会
・合同シンポ/20周年記念事業の開催、学会奨励賞授与、評
議員会等各種委員会の開催、学会誌の発行等に関する報告が
あった。

2. 合同シンポ（JSR10）準備状況

山本組織委員長（前行事幹事）より第23回・年会・合同シ
ンポ（JSR10）の会期、会場等、準備状況に関する報告があ
り、タイムテーブル、特別講演（2件）、企画講演（4件）
の概要について説明があった。さらに今後のスケジュールお
よび予算案について報告された。

なお、学生発表賞については、公平を期すため口頭発表者
を含めポスター発表による審査を検討したが、会場の容量の制
約により実現できないこと、この件については今後の課題と
して検討していくことなどが説明された。

3. 第1回放射光基礎講習会実施報告

木村滋行事幹事より第1回日本放射光学会放射光基礎講習
会「先端研究開発ツールとしての放射光利用術」に関する実
施報告があった。会期は2009年9月7日(月)、会場は東京
大学本郷キャンパス工学部6号館63講義室、参加費2000円
（テキスト代含む）、交流会参加費3000円。講習会参加者は
68名、交流会参加者は29名。応用物理学会、物理学会の
メーリングリストで宣伝してもらったことを確認した。ま

た、学生あるいは民間企業からの参加者に対しそれぞれの受
講者の理解度を考慮した講演スタイルを検討するべきである
という意見があり、今後検討することとした。

4. 第1回若手研究会実施報告

木村滋行事幹事より第1回若手研究会「X線ナノ集光技術
研究会」に関する実施報告があった。会期は2009年8月10
日-11日、会場は大阪大学吹田キャンパス。参加者は90名
（うち非会員37名、新規入会4名）。大変好評であったこと
が報告された。今後は参加費に差をつけることを検討するこ
ととした。

5. 会誌編集状況

足立編集幹事より、会誌「放射光」Vol. 22, No. 6以降の進
捗に関する報告があり、原稿到着、査読、著者修正等、解説
記事8件、トピックス記事5件の現在の状況について説明
があった。Vol. 22, No. 6~Vol. 23, No. 2への掲載が予定さ
れている「検出器シリーズ」の単行本化について質問があり、
足立幹事より今後検討する旨の回答があった。

6. Cheiron School & AOFSSR (Asia/Oceania Forum for Synchrotron Radiation Research) 予定

下村評議員より第3回 AOFSSR サマースクール：Cheiron
School 2009/会期：2009年11月2日-11日、会場：SPRING-8
について、未だ参加申込みがされていないのでプログラムが
決まっていないという報告があった。本学会と AOFSSR、
Cheiron School との関係がよく分からないという質問があ
り、本学会では、アジア・オセアニア地区の放射光科学の発
展に資するための学会活動として、AOFSSR、Cheiron
School に協力していることが説明された。AOFSSR におけ
る放射光学会の役割、日本を代表する学会としての関わり方
については、AOF ワーキンググループを学会の中に設置
し、そこで整理をする案が出された。

7. 2010年幹事会・評議員会日程

原田庶務幹事より2010年の幹事会・評議員会の開催スケ
ジュールが提示された。放射光関係の重要な日程と重なって
いないかどうか、それぞれが確認することとした。

〈審議事項〉

1. 2009年度決算・2010年度予算

原田庶務幹事より、2009年度決算（中間）報告および2010
年度予算の説明があり、承認された。

2. 2010年度学会組織および事業計画

原田庶務幹事より、2010年度の学会組織（会長、幹事、評
議員、各委員会委員）、および事業 計画に関する提案があ
り、承認された。事業計画については、第4回 AOFSSR@
上海（中国）を追加することと、放射光学会年会開催時、
同じ会場で開かれる市民講座については前々回 から本学会
は共催になっている旨の説明があった。ブルーバックスは
2011年に出版予定。

3. 2010年度渉外幹事活動方針

水木渉外幹事より、ホームページの適宜更新：定期的にチェックする渉外委員の選出、レンタルサーバーの大容量化（4GBから40GBに）、20周年記念事業で作成したパンフレットの修正と増刷などの方針について説明があった。

ホームページは英語版の作成を待たずに、できるところから全面更新を始めること、大容量化に伴う追加費用の予算化、英語版はSRニュースのコピーではなく、独自のデザインで作成する（費用は別途検討）ことが検討された。また、「lightsources.org」等、世界の放射光コミュニティへ情報発信を行うことが提案された。

4. 2010年度行事幹事活動方針

木村滋行事幹事より、年会・合同シンポの開催予定に関する説明があり、以下を確認した。

第23回年会・合同シンポ（JSR10）、2010年1月（イーグレ姫路）

第24回年会・合同シンポ（JSR11）、2011年1月（つくば）
2009年度から開始した若手研究会は参加者90名と盛況であったので、本年度も継続して開催することを決定。また、放射光基礎講習会は2日間での開催を検討する。1日目は基礎編。2日目は応用編。大学での放射光の授業が少ないので、基礎編では大学の授業の補完を行う。雨宮評議員より、基礎編の講演者の講演の方法を予め調整したほうがよい（内容の重複や抜けを防ぐため）という意見があった。

5. 2010年度編集幹事活動方針

足立編集幹事より、「放射光ビームライン光学技術入門～はじめて放射光を使う利用者のために」が完売後、英語翻訳本の出版を検討する旨の報告があった。また、一般読者向けの解説記事をさらに充実していくと共に、来年1月号（Vol. 23, No. 1）から毎号に巻頭言を掲載することとし、歴代会長に順番にお願いすることとした。

6. 第14回学会奨励賞選考結果

尾嶋会長より6件の応募について学術賞等選考委員会で選考した結果、下記の3名を第14回学会奨励賞の受賞者として推薦する旨の報告があり、審議の結果承認された。今回は6名の応募があったが、もっと応募があってもよいという意見が出された。

高橋幸生会員

（大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター）

「コヒーレント X 線回折・散乱イメージング技術の開発とその応用」

田中真人会員

（独立行政法人 産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門 光・量子イメージング研究グループ）

「生体分子の放射光円二色性分光研究」

山根宏之会員

（自然科学研究機構 分子科学研究所 光分子科学研究領域）

「高度構造制御による有機薄膜・界面電子状態の精密実験」

7. 男女共同参画学協会連絡会、JABEE について

男女共同参画学協会連絡会にはオブザーバー会員として加入

しており、今後もオブザーバーとして対応していくこととした。

JABEE（日本技術者教育認定機構）については、今後もオブザーバーとして引き継いでいくこととした。

8. 会員異動

原田庶務幹事より、第83回評議員会（2009年7月11日）以降の入退会申請者に関して、入会：正会員90名（うち学生会員70名）の報告があり、これを承認した。退会に関しては正会員20名（うち学生会員3名）から退会届けが出されたが、関係ある会員について再度折衝することで会長に一任された。2009年10月17日現在の総会員数は1,315名（うち学生会員133名）で前回から70名増加した。賛助会員47社49口。また、学会に貢献された会員で退職された方をシニア会員にしてはどうか、という提案が出され、執行部（会長、幹事）が次回評議員会に「シニア会員」案を提出することとした。

9. 協賛・後援について

水木渉外幹事より本学会に対する協賛・後援依頼について報告があり、協賛9件、後援3件を承認した。

10. その他（名簿作成時の性別・年齢情報、他）

原田庶務幹事より、会員登録における性別と生年月日の記載を徹底化する旨の報告があった。

11. 放射光学会の SESAME 支援について

下村評議員より、我が国が中東ヨルダンに建設中の放射光施設 SESAME を支援する経緯について、これまでは個人ベースで関わってきたことが述べられた。しかし昨年6月の閣議決定で日本が SESAME のオブザーバーに承認されたことから、文科省国際統括室が日本の窓口になり、関連部署として大型放射光利用推進室（SR室）に実務が委託された。今後は放射光学会がコミュニティの意見をSR室に述べることで、放射光学会に参画している各放射光施設、放射光学会会員諸氏が SESAME の支援に参加することを了解してもらう旨の説明があった。

12. 「物性物理学・一般物理学分野の大型計画等に関するシンポジウム」

会期は2010年1月27日、会場は日本学術会議講堂。放射光学会にとって重要な課題について議論が行われるので、是非、参加するようにという要請があり、審議した結果、放射光学会として講演を提案することとした。

13. 議員会日程（予定）の確認

第85回評議員会 2010年1月6日（水） 12：00-13：00

場所：イーグレひめじ

第86回評議員会 2010年4月10日（土） 14：00-16：00

場所：理研東京事務所

第87回評議員会 2010年7月10日（土） 14：00-16：00

場所：理研東京事務所

■会員異動

第84回評議員会（2009年10月17日）で承認

《正会員入会》

三宅 明 キヤノン株式会社 精密技術開発センター

佐藤 和彦 帝人㈱

水谷 治央 東京大学総括プロジェクト機構学術総合化プロジ

エクト

星野 大樹 JST/ERATO 高原ソフト界面プロジェクト

池内 和彦 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究センター

簗原 誠人 東京大学大学院工学系研究科尾嶋研究室

吉田 博久 首都大学東京都市環境科学研究科

川崎 郁斗 日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門 放射光科学研究ユニット

栗栖 源嗣 大阪大学蛋白質研究所

片柳 英樹 分子科学研究所光分子科学研究領域

馬場 清喜 高輝度光科学研究センター 利用研究促進部門

禾 晃和 大阪大学蛋白質研究所プロテオミクス総合研究センタープロテオーム物質創製研究系

引間 孝明 理化学研究所 播磨研究所 放射光科学総合研究センター 利用システム開発研究部門 基盤研究部

菊地 守也 科学技術振興機構

戸出真由美 日本原子力研究開発機構 放射光科学研究ユニット 放射光表面・薄膜創製研究グループ

谷口 陽介 財団法人高輝度光科学研究センター 産業利用推進室

竹田 幸治 日本原子力研究開発機構

大槻 匠 理化学研究所 放射光科学総合研究センター 量子秩序研究グループ 励起秩序研究チーム

高井 良太 高エネルギー加速器研究機構 加速器研究施設 加速器第七研究系

平田 邦生 RIKEN/SPring-8 Center

以上20名

《学生会員入会》

原田 翔太 名古屋大学工学研究科量子工学専攻曾田研究室

笹野 雅志 鳥取大学大学院工学研究科電子材料工学研究室

石嶋 宏行 鳥取大学大学院工学研究科電子材料研究室

山崎 岳 東大新領域物質系専攻百生研

桑原 宏萌 東京大学大学院新領域創成科学研究科物質専攻百生研究室

大橋 巧 京都工芸繊維大学

菊池 亮 東京大学工学部応用化学科尾嶋研究室

劉 江偉 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

鎌田 洋之 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

古川 陽子 東京大学工学系研究科尾嶋研究室

磯部 真里 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

田邊 健彦 東京工業大学大学院理工学研究科化学専攻、河内・北島研究室

齋藤 信 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

岡部 崇志 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

山崎 陽 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻

相崎 真一 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻藤森研究室

干鯛 将一 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

石上 啓介 東京大学新領域創成科学研究科藤森研究室

平 義隆 名古屋大学工学研究科マテリアル理工学専攻量子エネルギー工学分野曾田研究室

岡崎 宏之 岡山大学大学院自然科学研究科薄膜物性学研究室

矢尾裕一郎 岡山大学理学部附属界面科学研究施設

梶間 智文 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

中村 祥明 岡山大学大学院自然科学研究科

福井 仁紀 岡山大学理学部物理学科

中村 友紀 東京大学工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

平池 佑介 東京大学工学部応用化学科尾嶋研究室

河端 克幸 東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻百生研究室

原田 尚之 東京大学工学系研究科尾嶋研究室

佐藤 綾子 群馬大学大学院工学研究科電気電子工学専攻伊藤正久研究室

山本 大貴 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研究室

池上 剛史 兵庫県立大学理学部物質科学科物質反応論I 講座

野網 健悟 岡山大学大学院自然科学研究科横谷研究室

桑原 豪 大阪大学基礎工学研究科物性関山研

成田あゆみ 茨城大学大学院理工学研究科矢板研究室

田頭 徹朗 広島大学大学院理学研究科物理科学専攻光物性研究室

砂口 尚輝 山形大学大学院理工学研究科湯浅研究室

榊 茂之 大阪大学工学部応用自然科学科精密科学コース山内研究室

福島 和亮 大阪大学基礎工学部物性関山研

辰巳 昌人 立命館大学大学院理工学研究科博士前期課程創造理工学専攻応用化学無機分光化学研究室

蘇 建榮 京都大学大学院理学研究科化学専攻生物構造化学研究室

本並 哲 大阪府立大学大学院工学研究科電子・数物系専攻数理工学分野固体物性研究グループ

石津 貴彦 大阪府立大学大学院工学研究科電子・数物系専攻数理工学分野固体物性研究室

中田善三郎 大阪大学蛋白質研究所高木研究室

真木祥千子 名古屋大学工学研究科澤研究室

増永 和裕 金沢大学、自然科学研究科、数物科学量子物性研究室

多田 将樹 兵庫県立大学高度産業科学研究所放射光ナノ工学分野

角本 雄一 大阪大学大学院理学研究科化学専攻反応物理化学研究室

井上 敬介 兵庫県立大学表面界面物性学講座

木村 雅仁 大阪大学基礎工学部物性関山研

長谷 篤宗 名古屋大学工学研究科

古居 雄太 名古屋大学大学院

- 小宇佐友香 慶應義塾大学理工学研究科近藤研究室
熊代 哲也 名古屋大学工学研究科澤研究室
中村 健介 総合研究大学院大学, 高エネルギー加速器科学
科, 物質構造科学専攻, 構造生物学研究センター
東浦 彰史 大阪大学蛋白質研究所超分子構造解析学研究系
吉田 雅洋 日本原子力研究開発機構放射光科学研究ユニット
佐々木大輔 京都大学大学院理学研究科化学専攻生物構造化学
分科
姜 健 広島大学理学研究科谷口研究室
鱈川 泰 大阪府立大学理学系研究科
吉松 公平 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻尾嶋研
究室
脇岡 敏之 大阪大学大学院工学研究科精密科学・応用物理学
専攻精密科学コース山内研究室
小河 愛実 東京大学物性研究所松田研
前島 尚行 奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科
大門研究室
徳田 哲久 関西学院大学理工学研究科
- 磯濱 陽一 広島大学大学院理学研究科電子物性研究室
秋田 純一 兵庫県立大学大学院, 工学研究科物質系工学専
攻, 物質計測学研究グループ(村松研究室)
成田 宏隆 大阪大学蛋白質研究所超分子構造解析学研究系研
究室
田邊真依子 神戸大学大学院人間発達環境学研究科中川研究室
倉永 健史 京都大学大学院理学研究科化学専攻生物構造化学
研究室
宮村真理子 大阪府立大学理学系研究科物理科学専攻構造物性
研究室
- 以上70名
- 《退会会員》
正会員17名, 学生会員3名
- 《会員数》
会員1315名(内学生133名) 賛助会員47社(49口)

■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2010年 1/6-9	第23回日本放射光学会年会・放射光科学合 同シンポジウム	イーグレひめじ	日本放射光学会 E-mail: jsr10@jssrr.jp	22・5
1/20	表面科学技術研究会2010 —環境とエネルギーのためのナノテクノロ ジー：新しい創製技術と機能—	神戸大学瀧川記念学術 交流会館	日本表面科学会関西支部 & 表面技術協 会関西支部 E-mail: shii@riast.osakafu-u.ac.jp	22・6
1/22	第19回放射線利用総合シンポジウム	大阪大学中之島セン ター	社団法人大阪ニュークリアサイエンス 協会・大阪府立大学 産学官連携機構 TEL：06-6262-6540	22・6
3/16	第4回講習会「X線反射率による薄膜・多 層膜の解析」	東京大学工学部6号 館	(社)応用物理学会 埋もれた界面のX線 ・中性子解析研究会 E-mail: sakurai@yuhgiri.nims.go.jp	22・5

本欄では、研究会、シンポジウム、国際会議等のおしらせを募集しております。掲載ご希望の方は事務局までご連絡下さい。一記事の長さは1/2ページ以下を目安とし、様式は事務局で変更させて頂く場合がございます。

■表面科学技術研究会2010

—環境とエネルギーのためのナノテクノロジー：新しい創製技術と機能—

高度情報化社会の実現に伴い、急速な技術革新により利便性の高い社会が形成される一方で、膨大な資源・エネルギーの浪費による地球生命系の環境劣化が加速されています。世界的に環境やエネルギー問題に関心が集まる中、昨年報告されたグリーン・ニューディールを基に、代替エネルギーの積極的導入による環境改善と雇用拡大を図ろうとする政策が各国で打ち出されています。

本研究会では、環境・エネルギー問題の解決のためのナノテクノロジー（グリーンナノテクノロジー）とエレクトロニクスと表面科学との関わりと新たな展開に関して、ご専門の異なる先生方からご紹介頂くよう企画いたしました。関連研究者・技術者の方をはじめ、多くの方々の参加をお待ちしております。

主 催：日本表面科学会関西支部 & 表面技術協会関西支部

共 催：神戸大学研究基盤センター

協 賛：日本放射光学会、他

日 時：2010年1月20日(水曜日) 13:00-17:30

場 所：神戸大学瀧川記念学術交流会館（神戸市）

定 員：100名

参加費：無料

申込先（問い合わせ先）：

日本表面科学会関西支部幹事 椎木 弘

大阪府立大学 産学官連携機構

先端科学イノベーションセンター

(〒599-8570 堺市中区学園町1-2)

Tel/Fax：072-254-9875

E-mail：shii@riast.osakafu-u.ac.jp

申し込み締切り：2010年1月13日(水)

申し込み方法：

<http://www.sssj.org/Kansai/goudou100120.html> での
ONLINE 申し込みを推奨します。

会場案内：

神戸大学瀧川記念学術交流会館

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

(TEL 078-803-5583)

アクセスマップ

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/access/index.htm>

- ・阪急電車六甲駅、JR六甲道駅、又は阪神電車御影駅から市バス36系統に乗り「神大文理農学部前」下車
- ・新幹線「新神戸」駅からタクシーで約15分

■第19回放射線利用総合シンポジウム

主 催：社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会・大阪府立大学 産学官連携機構

協 賛：日本放射光学会、他

日 時：2010年1月22日(金) 10:00-17:00

場 所：大阪大学中之島センター

(大阪市北区中之島4-3-53 TEL06-6444-2100)

参加費：

5,000円 後援協賛団体会員3,000円 大学・公設機関1,000円
一般市民・学生 無料

定 員：

100名 参加希望の方はFAX、またはホームページ (<http://homepage2.nifty.com/onsa/>) からお申し込み下さい。(定員になり次第締め切ります)

問合せ先：

〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町2-3-6 (社)大阪ニュークリアサイエンス協会 (TEL：06-6262-6540)

● 会誌オンライン利用方法に関するご案内

編集委員長 足立伸一
渉外幹事 水木純一郎

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID : jsr226

Password : eN5wjk9n

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、[学会誌「放射光」のオンライン閲覧](#)をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等御座いましたら、水木 (mizuki.junichiro@jaea.go.jp) までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、足立 (shinichi.adachi@kek.jp) までお願いします。